

# リベルタ新聞

待つ春を飾る桜花に染る庭



4月になり、春の暖かさを感ずる季節となりました。今年も富士中央ケアセンターの桜は綺麗な姿を見せてくれ、外へ歩きに行くご利用者様の足を軽くしてくれました。

4月14日、『弘喜会』の皆様が慰問に来て下さいました。演目に合わせた色とりどりの衣装、息の合った踊りに時を忘れて皆様思い思いに楽しんでました。

4月23日～28日の一週間を『シネマウィーク』と題し、昔懐かしい映画を上映致しました。映画通のご利用者様からのリクエストを中心に、各世代の名作をセレクトしました。

月曜日：点と線  
 火曜日：ギターを持った渡り鳥  
 水曜日：男はつらいよ 寅次郎ハイビスカスの花  
 木曜日：野菊の如き君なりき  
 金曜日：山の音  
 土曜日：松本清張 眼の壁  
 皆様の思い出の一作はありましたか？

2018年  
 5月1日(火)  
 リベルタ新聞社  
 富士市厚原372番地1  
 ホームページ  
<http://www.fujic3.com>  
 TEL:0545-72-3833



定期連載  
 俊さんのコラム

## 「後悔」

六十五年前、小生高校三年の日曜日。父が、「とし今日リヤカーを押ししてくれ。」と言った。

私は「勉強があるから。」と言って父にことわった。すると、父が一人で肥料を積んだりヤカーを引いた。大淵の坂道を。登るのは大変だったと思う。

父は大変な思いをして我々家族の為に食料を作り、サツマイモの栽培をしていた。

今思うことは、勉強もありもしないのに、手伝いを断ったことに、後悔をしている。父は、当時六十歳を超えていたと思います。

小生は受験のため、受験のため、何でも許されると人生に甘い考えを持っていたことをこの歳になって、初めて納得したしだいであります。

その後父は、昭和二十年三月一〇日の東京大空襲の後遺症の為に、病弱で小生大学入学して、間もなく他界した。今でも大変後悔している。最近時々、六十五年前のことを思い出して、涙することがあります。

